

川内 康範(かわうち・こうはん)

1、プロフィール

数多くの、テレビや映画の脚本、小説、作詞を発表。なかでも原作、脚本を手がけた国産初のテレビドラマ「月光仮面」は大ヒットした。政治評論家としても活躍。

<生没>

1920(大正9)年2月6日 ~ 2008(平成20)年4月6日

<代表作>

『月光仮面』(1976年、廣済堂出版)、『吾等原爆に降伏せず』(1995年、万栄社)、『昭和ロマネスクー歌は人の志を運ぶ船である』(2002年、黙出版)、『おふくろさんよ一語り継ぎたい日本人のこころ』(2007年、マガジンハウス)など

<青森との関わり>

1941年、西平内村(現平内町)の傷疾軍人療養所で半年療養。1981年から三沢市、2005年から八戸市在住。

2、作家解説

作家、脚本家、作詞家、政治評論家。

本名・川内潔。1920年(大正9)、北海道函館市の日蓮宗の寺に生まれる。高等小学校卒業後、炭鉱などの職業を経て17歳で上京、新聞配達などをしながら独学。1940年(昭和15)横須賀海兵団入団、上官の暴力によって患った慢性気管支炎に、生涯苦しめられた。翌1941年、純文学作家デビュー。戦後、テレビや映画の原作・脚本を数多く手がけ、なかでもテレビドラマ「月光仮面」は大ヒットした。また20年近く続いたテレビアニメ「まんが日本昔ばなし」の監修も務めている。週刊誌などに多くの小説を連載、作詞家としては、「誰よりも君を愛す」「恍惚のブルース」「君こそわが命」「骨まで愛して」「おふくろさん」など数々の大ヒット曲を持つ。

戦後間もなくから自費で戦没者の遺骨収集や海外抑留日本人の引き上げ運動に取り組み、政財界と関わる。佐藤栄作以来歴代首相の私設顧問を引き受け、辛辣な政治評論家としても活躍した。

1977年(昭和52)転地療法として渡米、帰国後の1981年(昭和56)から、三沢市・古牧温泉の社長だった故杉本行雄氏宅の離れで暮らした。当地に移り住んだ理由は、「空気が良く、杉本氏のあたたかさに惹かれた。三沢米軍基地での情報収集もできる」と記している。2年後三沢市泉町に自宅を新築、その辺り、市民からは「月光通り」と呼ばれていた。2001年(平成13)、三沢市公会堂前に「三沢市在住20年記念碑」を建て、同市に寄贈している。

三沢市にいた主治医が八戸市の病院に移ったことから、2005年(平成17)八戸市に移住。最晩年、八戸市新井田に自宅を新築している。

2008年(平成20)、慢性気管支炎により八戸市の病院で死去。享年88。星野リゾート青森屋(旧古牧温泉)の一角にある、「生涯助ッ人」と刻まれた墓に眠る。

3、資料紹介

○『『月光仮面』復刻版 恐怖の秘密兵器』

図書

2007(平成19)年9月26日

190mm×127mm

1958(昭和33)年放送の国産初のテレビドラマ「月光仮面」シリーズは、大ヒットした。川内は原作、脚本、「どこの誰だか知らないけれどー」で始まる作詞も手掛けた。仏教の月光菩薩をモデルに、「憎むな、殺すな、赦しましょう」をコンセプトに描かれている。